



挨拶にたった古木康太郎JOTC欧州部会長



熱心な商談会が繰り広げられました
©GNTB / Emilia Haar

EUの業界向けワークショップを後援 18カ国の大使館・観光局が自国の魅力をPR

2018年12月4日、JOTC 欧州部会では、EUツーリズムイベント実行委員会が主催する旅行業界関係者向けのセミナーとワークショップを、昨年に続き駐日欧州連合(EU)代表部とともに後援。今回はEU加盟の18カ国の大使館・観光局の出展のもと、午前は旅行会社向け、午後は業界および一般メディアを対象として、参加国が観光素材や魅力をPRしました。

旅行会社向けセミナーには100名を超える旅行会社関係者らが参加し、冒頭ではJOTC 欧州部会の古木康太郎部会長(グローバルユースビュロー会長)が、「今回のセミナー・ワークショップを通じて入手した情報をもとに、知恵を絞って各社独自の付加価値のある旅行商品を作成していただきたい」と強く呼びかけました。

また今年12月の開催となったことから、JOTC 欧州部会副部長の阿部かずみが、クリスマススをテーマにした18カ国のプレゼンテーションを行いました。その後の商談会では、それぞれのブースで熱のこもった会談が繰り広げられていました。

参加国(アルファベット順)・・・ベルギー、クロアチア、チェコ、エストニア、フィンランド、フランス、ドイツ、ギリシャ、ハンガリー、アイランド、イタリア、リトアニア、ルクセンブルク、オランダ、スロバキア、スペイン、スウェーデン、英国

JOTC・航空会社インタビュー 第5回

モスクワ、サンクトペテルブルク以外の地域や文化的ツアーの造成を

2018年に会社創立95周年を迎えたアエロフロート・ロシア航空(SU)。近年良好な日露関係を背景としたなか、機材やサービスなど世界的な評価の高まるSUの、今後の展開について伺いました。

—いま日本市場の需要拡大に向けて重点的に取り組んでいることは。

スシュコ 日本の旅行会社と旅行商品の造成を通じ需要拡大に取り組んでいるほか、JATAのツーリズムEXPO ジャパンにも毎年参加し、業界・消費者双方に訴求を図っています。2018年のサッカーW杯もロシアの認知度向上に効果があったと思います。

—SUのアピールポイントについて教えてください。

スシュコ 成田／モスクワ間をデイリー運航しているのは当社のみです。現在当社の保有機材は252機で、100機以上保有している世界の航空会社の中で、当社の平均機齢4.2歳というのは世界でもトップクラスという統計が出ています。ネットワークは55カ国152都市で、昨年は3280万人の利用者がありました。ロシアの航空会社として唯一、スカイトラックスから4スター認定を受け、同社のプレミアムエコノミークラス機内食ランキングでは第一位を獲得、またアメリカの航空業界団体APEXからも5つ星認定を受けるなど、世界的な評価が高まっています。2013年からは英国のプレミアリーグ「マンチェスターユナイテッド」のオフィシャルエア

アエロフロート・ロシア航空

日本・オーストラリア支社長 アレクセイ.A.スシュコ



ラインにもなっています。

—SUの最新情報を教えてください。

スシュコ 2019年2月中旬から東京／モスクワ間にボーイング777を導入予定です。座席構成はビジネス30席、日本路線初のコンフォートクラス(プレミアムエコノミー)48席、エコノミー324席の計402席と現在より100席増加し、ビジネスクラスは全てフルフラットです。

—旅行会社に向けてのメッセージをお願いします。

スシュコ 観光地としてのロシアはまだ知られていないところも多く、ポテンシャルを秘めています。ソチやカザン、エカテリンブルクといった地へのツアーや、モスクワやサンクトペテルブルグでも女性向けのツアーやバレエ鑑賞、劇場や美術館巡りなど文化的ツアーなども造成していただきたいと思っています。

アエロフロート・ロシア航空

TEL 03-5532-8781

※インタビューの全文はJOTCのホームページ(<http://www.jata-net.or.jp/outbound/>)でお読みいただけます